

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名：グループホーム チャ〜がんじゅう

作成日：令和 5 年 5 月 1 日

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題の焦点化が難しくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	昨年は運営推進会議への取り組みができず、ステップとなっていたが、開催回数をクリアして、5月からは対面開催も予定されており、外部評価についても報告が求められる。	対面・書面での開催を2ヵ月に1回行う。 (推進委員に活動内容を報告し、助言等を頂く)記録し、職員・家族とも共有する。頂いた助言等は次回の運営推進会議時に報告行う。	令和5年1月～2ヵ月に1回開催するように計画書の作成は終わっています。直近で3月に書面での開催済み(助言等も頂き記録してます)。次回の開催は今月ですが、対面ではなく書面にて対応する予定となっています。	1 か月
2	34(15)	介護事故防止や再発防止に向けて、日常における危険を察知するヒヤリハットと、実際の事故発生時の正しい要因分析と対応策の検討、職員間での共有が望まれる。	①施設内動線の安全確保 (危険個所の見直し・対策)の情報共有の会議 ②見守りの強化(声掛け等) ③ヒヤリハット等があれば事故に繋がる前に職員間で共有する。 ④利用者様の状況・観察の徹底。	①職員間で話し合い、書き出してみる。 ②声掛けで職員の居場所確認(～だろうを無くす)。 ③ヒヤリハットが記入出来る環境作り(互いを認め合い・尊重できる空間作り) ④職員が固定の利用者様に対応するのではなく皆で状況が分かるように共有ノート等の記入の徹底を行う。	3 か月
3	35(16)	想定される各種災害への防災マニュアルの整備と、夜間想定避難訓練の実施とともに、保管場所を確保し、職員分を含めた備蓄品の整備とリストの作成が望まれる。	①避難訓練は年2回(2月・8月)に実施とし計画書作成済み。2月は日中の想定だった為、8月実施時は夜間想定とする。 ②(台風・地震・津波・浸水)のマニュアル整備が出来ていないので、作成し職員間で共有・実施を行う。 ③備蓄品のリストを作成し、保管場所の確認をする。	①業者(沖縄ホーチキ)立ち合いの下、事前に想定できる内容で実施する。 ②各種マニュアルを作成し、実際に実施し、改善点等の共有を図る。 ③備蓄品のリストを作成し、保管場所・持ち物の一覧表を掲載する。	6 か月
4	6(5)	身体拘束適正化委員会は3か月に1回以上の開催が義務付けられているので、4月以降の定期的な開催が望まれる。	身体拘束適正化委員会の開催計画書作成済みで、3か月に1回行えている。職員も参加し、開催出来るようにしたい。	身体拘束委員会で話し合われた内容は引き続き職員間でも共有し、身体拘束0を継続していく。その為に委員会に交互で職員を参加させる。	3 か月
5	12(9)	ハラスメント対策は令和4年4月より義務化されているので、ハラスメント防止の方針や定義、種類を明確にし、対策の指針や体制、マニュアルの整備、研修の実施等、早急な対応が求められる。	ハラスメントに関してマニュアルの整備が出来ていない為、事業所用を作成し、職員に周知確認してもらう。勉強会にも取り入れていく。	マニュアルの作成後、ミーティングを活用し読み合わせ、確認・反省等働きやすい職場環境を皆で作っていく。	6 か月

注) 項目の欄については、自己評価項目の番号を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。